（公財）えひめ西条つながり基金助成プログラム
「西条市内に子ども食堂を2つ増やそう」

ステップアップ報告書

この報告書は「西条市内に子ども食堂を2つ増やそう」の助成プログラムの2年目の報告書になります。2年目の活動をふりかえり、今後の活動に活かせるような報告書を作成しましょう。

記載日時：　令和7　年　12　月　21　日

団体名：周布つむぎて地域食堂
記載者名[redacted]

1．実施の報告

月	実施内容	実際の活動	備考
12月	イートイン開催	12月7日 クリスマス会の実施 ゲームをしたあと、食事会。	対象は小学生。高校生ボランティア2名、地域ボランティア2名
1月	お弁当配布	1月8日冬休み企画。ゴテンマエ食堂とのコラボ弁当テイクアウト15食	対象は高校生までと65歳以上
2月	お弁当配布	2月1日テイクアウト35食	
3月	お弁当配布	3月28日春休み企画。ゴテンマエ食堂さんとコラボ。テイクアウト18食	対象は高校生までと65歳以上
6月	お弁当配布	6月7日テイクアウト60食	
7月	お弁当配布	7月5日テイクアウト40食	
8月	イートイン開催 お弁当配布	8月2日夏休み企画 勉強会のあと食事。 8月20日ゴテンマエ食堂とのコラボ弁当24食。	中高校生ボランティア8名 地域ボランティア2名
9月	子ども食堂の視察	宇和島で子ども食堂をされているうわじまグランマさんへ視察。9月21日	
10月	お弁当配布	10月4日テイクアウト54食	

２．活動内容の評価

この1年で取り組んだことを書いてください			
計画時			
子ども食堂の内容	組織体制	財政状況	地域の変化
知り合いの子ども食堂の視察。他の子ども食堂の視察。 メニューの構成 食材の調達方法	他の子ども食堂のリサーチをして理想に近い子ども食堂の視察に行く。 産直市の農家さんが入る場所にチラシを貼る。	子ども食堂が対象の助成金の種類を調べ勉強する。 100万円と10万円の助成金でできることの違いを調べる。 目指すイートインに必要な助成金。	他の子ども食堂が困りごとの受け皿などをどうしているのか視察でヒントをもらう。 どんな広報活動や発信をしているのか対策など聞く。
実際の活動			
宇和島で活動されているうわじまグランマジャパンさんの見学に行くことができた。調理場施設の見学、防災への取り組みなどの話を聞くことが出来た。	産直市へチラシ設置する話に行くことはできなかった。 公民館を通して、お米の寄付をいただけた。	大きく分けて「国・自治体（公的支援）」と「民間財団・企業」の2種類があることがわかった。また、人件費は含まれないものもあった。	うわじまグランマジャパンさんでは、宇和島市と防災に関して連携を取っていたりメンバーさんが防災士の資格を保有されていることなどの話を伺えた。
自己評価			
子ども食堂だけでなく、フードドライブ、防災イベントの開催、食品ロスへの取り組みなど幅広く活動されていることに刺激を受けることができた。	子ども食堂の活動の周知が広がるよう、現状でできる範囲のことから少しずつ取り組んでいけたらと思う。	助成金に関しては、同じ子ども食堂の活動をされている団体の方に相談したりして勉強していきたいと思う。しかし仕事と食堂とのバランスが難しいので、助成金の申請やその他の資金集めはハードルが高いと感じている。	Instagramだけでなく、地域のイベントなどの機会に参加させていただき、身近なところから活動内容を伝えていきたいと思う。

目指したい姿に近づいているかを確認しましょう			
計画時			
子ども食堂の内容	組織体制	財政状況	地域の変化
毎月イートイン開催をする。食べるだけではなく、季節のイベントを取入れて開催したい。 子どもたちとお年寄りが一緒にご飯を食べる。 毎月50食を提供できる。	メインメンバー 大人4人(広報、料理など) 高校生ボランティア 2～3人 (子どもたちと関わる)	助成金を活用しながら運営していく。 (大人分の食事の寄付) 野菜、米、卵の寄付 何に使うかを明確にして寄付を募る。	大人も子どももお年寄りも困りごとが相談できるようになり、必要なところへ繋ぐことができる。 困りごとを言える仕組み作り 公民館を活用し、ふらっと立ち寄れる場所になる。
現在の姿			
クリスマスの催しと、長期休み1回イートイン開催できた。テイクアウトの方が利用者数は増えている。1食ではあるが保護者の負担を減らすことに繋がっていると実感できた。 1回あたり平均30～35食の利用があった。	メインメンバーの他に、中高生のボランティアが少しずつではあるが増えている。	公民館や活動を通して、お米や容器の寄付があり、とても助かった。 助成金や大人の食事代の寄付もあり助かっているが、資金的には厳しい面もある。	テイクアウトは高齢者の方の利用も増えてきた。公民館便りに開催日時の掲載していただいた時期もあったが、メニューを知りたいとの要望があり、公民館便りの締め切りにはメニューは決まっていないので掲載はいまのところ中止している。
自己評価			
イートイン開催よりもテイクアウトの利用者が多いが子ども達には好評だった。一緒に宿題やゲームをする中で、子どもたちの希望を知ることができた。料理をしたいという声があったので、今後開催に向けて取り組んでいきたい。	地元の方や大人だけでなく、高校や中学校など子どもたちにもボランティアの声かけをしていき、繋がりを深めていきたい。	仕事と食堂とのバランスが難しいので、助成金の申請やその他の資金集めはハードルが高いと感じている。	テイクアウトでは、話をする時間があまりないが、困りごとを言えるきっかけ作りになればいいので、続けていきたい。また、イートイン開催時には話をする時間があるので、今後も開催していきたい。

３．総括と今後の取り組み

活動当初より、利用者数も徐々にではあるが増えてきたので、子ども食堂という活動が広まっていると実感している。ボランティアは大人という枠で考えるのではなく、中高生も巻き込んで、この活動を継続していきたい。子ども達と話をすることで、希望を聞くことが出来たので、料理教室の開催に向けて計画を立てていきたい。資金面も考えていかなくてはならないが、子ども食堂を通して子どもたちや地域が関わる機会が持ち続けられるようこの活動をしていきたい。